

---

# THE FOUR SEASONS

空集合

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

THE FOUR SEASONS

### 【コード】

NO912L

### 【作者名】

空集合

### 【あらすじ】

謎の組織に所属している主人公、春日を中心に夏林、山秋、風冬を巻き込んだ黒いお話。 シキは廻る。

黄金色をした空を、鴉が飛び交う。  
 春日は、空を見ているのが好きだ。  
 その楽しみは一瞬にして崩れた。

『春日いー生きてるか？応答を・・・ブチッ』

夏林からのコールは鬱陶しい。

『ひでーなあ、いきな・・・ブチッ』

数分すると

『はるひい・・・ズビ・・・切らないでくれよあ・・・ブチッ』

どうせ本部に戻れとの事なんだろうが、その連絡係りが夏林と  
 いうのは相手をする時間すら惜しいぐらい面倒だ。  
 溜息をつき、足元の灰と肉塊を蹴る。

「焼き損ねたか・・・はあ・・・」  
 パチ  
 ンッ

ゴオオオオオオツ・・・一億度の業火をもともさせる夏  
 林の能力の結晶を使い。

肉塊を消滅させ、ゲートを開く。

もう少し、この空を見たかったのだが・・・夏林からのコ  
 ールが煩いので仕方が無い。

目の裏にその空を映し、ゲートをくぐった。

ゲートは、本部への道にもなり非常に便利だ。いちいちワープを使わなくて済む。

「やあ、お帰り。春」

丁度本を読み終えたのあ、本を閉じて茶を飲む風冬<sup>カザフユ</sup>が居た。

「ただいま……山秋はどこだ？」

いつも風冬の近くに居る山秋<sup>ヤマキ</sup>が居ない、すると風冬は溜息をつき。

「買い物」

「ああ……成る程。」

山秋の買い物といえば、飴やチョコレートなどの甘味の買出しだ。

「春、夏林は？」

「知らん、興味すら無い。あんな無能で低レベルな奴なんて」

……と、言っている背後に夏林は居た。

「今回はどんなミッションだったの？」

夕食後、ロビイでくつろいでいた風冬は春日に聞く。

「コンチータファミリイの殲滅。」

「コンチータファミリイだと？あそこはこの前俺が……」

「ツメが甘かったんだ、お前は。頭潰してそのまま終わったんだろ  
う。」

「子が居たのか」

夏林はチエツと舌打ちし、部屋に戻っていった。

買い物から戻っている山秋は次のミッションに持っていく甘味を選んでいる。

「春、コーヒー入れたけど・・・飲む？」

「ありがとう」

少し長い沈黙

「あ、忘れるところだった。」

「Dr.の所？」

コーヒーを置き

「ああ、じゃ行ってくる。」

扉を開けた

「おや、来たね。」

Dr・リリイ・セラード。Drのくせに煙草を吸う。だが、腕は確からしい。

「何の用だ」

「まあまあ、そう急がずに」

Drは煙草の火を消した。

「この間の健康診断の結果なのですが……」

いつもはヘラヘラ笑っている顔が、真剣な顔になっている。

それほど深刻な状態なのだろうと春日は察した。

「身体の細胞が変化しています。最近、能力を使いすぎているのでは？」

「職業病だ、致し方ない。もう良いだろうか、次の任務にいかねればならない」

「そうですね……では、また」

そう言って、消毒液臭い部屋の扉を閉めた。

「後は夏林だけだな」

「あの人は遅れてばかりだよねー」

溜息をつく風冬に、笑う山秋。

ウンツ……

「わりい、遅れた遅れた」

微塵も悪いと思ってなさそうに夏林は現れた。

「これでそろったな、今回の任務内容を報告する。」

「今回は全員動くとはね……」

「まあ、たどっかのバカがへまやらかさなければいいんだけど？」

山秋は夏林を見てギョツとする。

「ケルフェード……」

殺意に満ちた瞳が煌々と光を放っていた。

「何故僕が……」

「春日は女形だから似合うねえ、ド・レ・ス？」

山秋はニヤニヤしながら襟を正していた。

これも任務なのだ、仕方がない。

ケルフェード・サイファー、生物研究所の研究長。

彼は細胞にマイクロサイズのウイルスを作り出した、そのウイルスが細胞内に入り込むと

筋肉は硬化し、瞬発力は爆発的に上昇する。

……という極めて危険な代物だ。

ケルフェードはそのウイルスを各国の海軍、陸軍、空軍へ売り込もうとしているらしい。

それを我々が阻止するということなのだが……

「バカだよなー、ケルフェードって」

山秋は飴を舂めながら毒を吐く

「人間兵器でも作る気かってーの」

「時間だ」

「OK」

「ラジャ」

「・・・アウト」  
ミッションスタート

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0912/>

---

THE FOUR SEASONS

2011年10月9日17時19分発行